

第29回感染症予防歯科衛生士講習会 質問内容と回答について

令和8年7月26日（日）、8月23日（日）に開催した本講習会における質問と講師からの回答です

【丸岡先生】

質問 1	とても勉強になりました。ありがとうございました。病院で勤務している歯科衛生士です。 今回の講演の中にあった梅毒に対して血液検査のRPRやTP抗体陽性など、病院歯科衛生士が知っておくべき検査項目などはありませんでしょうか。例えばCRPの上昇＝炎症など、ご教授いただければ幸いです。
回答 1	病院歯科衛生士が知っておくといふ代表的な検査項目としては、以下のものがあります。 白血球数・好中球数・CRP：感染や炎症の参考 血小板数・PT-INR：出血傾向の参考 AST・ALT：肝機能 クレアチニン・eGFR：腎機能 血糖値・HbA1c：糖尿病の状態 HBs抗原・HBs抗体：B型肝炎 HCV抗体：C型肝炎 RPR・TP抗体：梅毒 CRPは「体内で炎症反応が起きている可能性」を示しますが、感染症に特異的な検査ではありません。手術後、外傷、自己免疫疾患、悪性腫瘍などでも上昇するため、「CRP上昇＝細菌感染」とは限りません。 梅毒では、一般にRPRとTP抗体を組み合わせで判断します。TP抗体は治療後も陽性が続くことが多く、RPRは病気の活動性や治療効果をみる参考になります。そのため、「TP抗体陽性＝現在も感染性がある」とは限りません。 歯科衛生士としては検査値の意味を大まかに理解し、不明な点があれば担当医に確認することが大切だと思います。
質問 2	B・C肝炎の方は一時的にグルタラル製剤で（デントラスト）一時消毒してからの滅菌．．． でしたが、（最近グルタラル製剤の規制が有り）グルタラル無しで（個別）滅菌としても良いのでしょうか？
回答 2	はい。十分に洗浄した後、器材に適した方法で個別に滅菌すればよく、B型・C型肝炎の患者さんに使用した器材だけを、あらかじめグルタラル製剤で消毒する必要はありません。 感染症が判明している患者さんだけ特別な処理をしても、感染症がまだ分かっていない患者さんには対応できません。そのため、すべての患者さんの器材について、「回収・搬送 → 十分な洗浄 → 乾燥・包装 → 滅菌」という同じ手順で処理することが基本です。 グルタラル製剤は、主として高圧蒸気滅菌のできない器材に用いる高水準消毒薬です。刺激性もあるため、「滅菌前の一時消毒」として routinely 使用する必要はありません。
質問3	職場で肝炎の検査をしています。が、医科のDrの指示で昨年から細かな数値の検査はせずに+-の結果だけになっています。今後の肝炎の検査で理想とする検査等についてご教授お願いいたします。

回答3	検査が「HBs抗原」と「HCV抗体」であれば、感染のスクリーニングとしては、まず陽性・陰性の結果を確認する方法でも差し支えありません。陽性の場合には、医療機関で詳しい検査を受けます。 一方、B型肝炎ワクチンの効果を確認する「HBs抗体」については、単なる＋・－ではなく、一度は抗体価を測定し、10 mIU/mL以上あることを確認するのが望ましいです。 したがって、医療従事者については、 HBs抗原：現在のB型肝炎感染の確認 HBs抗体：B型肝炎ワクチンによる免疫の確認 HCV抗体：C型肝炎のスクリーニング を区別して考える必要があります。 なお、ワクチン接種後にHBs抗体10 mIU/mL以上を一度確認できていれば、原則として毎年細かな抗体価を測定する必要はありません。大切なのは、検査結果だけでなく、B型肝炎ワクチンの接種歴と抗体獲得の記録を職場で適切に管理することです。
-----	--

【野崎先生】

質問 1	クラスNのオートクレーブでハンドピース（タービン）を滅菌してもタービンの内部までは滅菌できないのでしょうか
回答 1	オートクレーブは高圧の水蒸気（湿熱）による殺菌なので、細い管の中など水蒸気が入り込みにくい場所では滅菌不良が生じる場合があります。クラスBのオートクレーブのように、吸引と加圧を繰り返して細管内に水蒸気を送り込む機構を有するものは、滅菌不良が起こりにくくなりますが、クラスNのように重力置換方式のものでは、どうしても滅菌不良が起こりやすくなります。
質問 2	私の医院では最近、診療中にタブレットを用いて術者が入力する機会が増えたのですが、タブレットに関する感染対策について悩んでいます。講義中にあったようにラップを患者ごとに変えていますが、負担が大きく、他にも方法がありましたらご教示ください。よろしくお願いいたします。
回答 2	タブレットの感染対策としては、現在行なっているように、ラッピング（ラップを捲く、もしくはビニール袋の中に入れる）を行なって物理的に感染物質がタブレットに付かないようにするのが最も効果的で安価な方法かと思います。
質問 3	切削用バーの添付書類に単回使用と記入されているものがありますが、オートクレーブ滅菌をして複数回使用しています。単回使用が望ましいと思いますがコストがかかるので難しいのが現状です。しかし、単回使用にしないといけないのでしょうか？
回答 3	歯科用バーに限らず、添付文書に「単回使用（ディスポーザブル）」と指定されている製品の再使用は、医薬品医療機器等法（薬機法）に基づき禁止されていますので、基本的に繰り返し使用は避けるべきかと思います。バー類は、洗浄滅菌が不十分になりやすいため交差感染のリスクがあること、またオートクレーブの熱で切削力が落ちたり折れやすくなる場合があるので注意が必要です。
質問 4	貴重なご講演ありがとうございました プラスチック製品（歯ブラシ、歯間ブラシ）の滅菌方法があれば教えていただきたいです
回答 4	プラスチック製品は高温に耐えないので、オートクレーブ滅菌はできません。どうしても滅菌する必要がある場合は、過酸化水素低温ガスプラズマ滅菌やEOGガス滅菌等の低温滅菌を行う必要があります。なお、歯ブラシ等については、滅菌して再利用するよりも個人使用とすべきかと思います。

質問 5	貴重なお話ありがとうございました。一つ質問させてください。 いつも診察前に水で患者さんに口をすすいで頂くのですが、何か洗口液の方がいいですか？ 普段もあまりにも口腔内が汚れている方は、味見してください。と言って洗口液でももらってます。 どうか教えてください。
回答 5	治療前の洗口は、院内感染防止の観点から有効です。歯科治療前に洗口液を使用してうがいをすることで、エアロゾルの汚染量を減らすことができる可能性が示唆されています。なお、一般的に使用されている洗口液として、クロルヘキシジン、ポビドンヨード、塩化セチルピリジニウム（CPC）などが挙げられています。 https://www.cochrane.org/ja/evidence/CD013826_does-use-mouth-rinse-dental-procedure-reduce-risk-infection-transmission-patient-health-professional
質問 6	消毒薬剤について質問があります。 フタラルの人的被害を教えてください。また、次亜塩素酸ナトリウムで使用の際に併用する錆止めで効果的な物がありますか？
回答 6	フタラルはタンパク結合性があるので、絶対に人体には使用してはいけません。人体に直接触れないよう注意し、素手で取り扱わず、手袋、ゴーグル、マスク、ガウン等の保護具を装着して使用してください。なお、添付文書に、以下の記載があります。【皮膚に付着したときは直ちに水洗いすること、眼に入った場合には、直ちに流水で15分以上洗った後、専門医の処置を受けること。コンタクトレンズ装用の場合はコンタクトレンズをはずして十分に洗眼を行い、専門医の処置を受けること。また、取り外したレンズは再使用しないこと、誤って飲み込んだ場合には、無理に吐かず、多量の水や牛乳を飲んだ後、専門医の処置を受けること。】 次亜塩素酸（次亜塩素酸ナトリウムや次亜塩素酸水）は強い酸化力を持つため、金属（ステンレスや鉄など）を腐食させサビを発生させます。この次亜塩素酸の効果（消毒力）を保ちつつ、防錆成分（カルボン酸等）を添加することは難しくかなり厳密な管理が必要なので、自院で配合するのではなく、防錆剤が添加された次亜塩素酸消毒液を製品として購入して使用すべきと思います。